



こんにちは!

市議員

井坂博文

です



連絡先/日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町 78 / 電話 432-3261 / FAX441-4968

地域でもつどいでも 対話が広がる

18日、朝から京都マラソンを自宅マンションから居ながら応援した後、地域の行動に参加して対話が弾み新たに4人の方が赤旗日曜版読者に。そのまま読者になっていただいた喫茶店でコーヒーを飲みながら生活相談タイム。午後からは

柏野地域の新春のつどいに参加してあいさつ。引き続き大宮交通公園近くの高齢者施設で開かれた健康友の会総会に参加。ゲストに先日京都府知事選挙に立候補表明された福山和人さんが来られてあいさつをされた。

夕方から娘夫婦と孫を誘って、京大近くにある自然派レストラン（2月いっぱい閉める予定）に行つて晩ご飯。料理もおいしく、名残惜しい限りだ。



8日、守田敏也さんを講師に団学学習会。守田さんの学習

守田さんの話は何回聞いてもポジティブで元気になる。たとえば、「いま日本の40基ある原発の中で3基の原発が動いている。3基も稼働されているとみるのか、37基も稼働を停めているとみるのか。

さらに情報が豊富で正確である。話の後に質疑、意見交換をおこなったが、バッチリ答えていただいた。さらに「今年8月にフランスで開かれる反核サマーキャンプに市会議員団からもぜひ参加を」とリクルートされた。何とかしたい。

原発からの命の守り方

議員団学学習会

会は二回目。今回は、原発からの命の守り方としての避難対策と安定ヨウ素剤の住民配布、世界の原発ゼロに向かう運動の紹介を中心に、パワポを駆使してしっかり話していただいた。

もちろん後者である。「福島原発事故までは世界の反核運動を日本に紹介していたが、今は日本の脱原発運動を世界に発信し激励する時代になっている」。「篠山市で始まった安定ヨウ素剤の配布が、全国に広がり、首長が保守の自治体にも私がどどんと呼ばれて意見交換している」という具合である。

被爆者と京都市の懇談会に出席

15日、京都原水爆被災者懇談会と京都市との懇談会が開かれ、私も世話人の一人として出席した。被爆者の平均年齢は今年で82歳に近づいており、原爆による後障害に加えて高齢化に伴う暮らしは深刻になっている。

団体が自主的、主体的に取り組むのが基本」と本会議答弁とまったくいっしょ（苦笑）。その一方で、今年度の国保の都道府県化に際して、「京都市の被爆者健康手帳の保険料減免制度は引き続き維持する」との回答、「懇談会と今

被爆者援護法を抜本的に改正し、再び被爆者を作らないとの決意と原爆被害に対する国の償い、そして核兵器廃絶を明記するよう国に働きかけることを求めているが、「援護施策は国の責任、業務は府の仕事であり、国の動向を注視する」と例年の回答の範囲内で、京都市の主体的役割の発揮が見えないのは残念。



後も話し合いの場を持つ」との回答ではあった。

62歳の誕生祝い

11日の夜、家族が誕生日祝いの食事を開いてくれるというのでいそいそと娘の家に。妻と娘が食材を買い出しして手作りのトマトベースのスープをふんだんに使ったトマト鍋がメイン。娘の自慢の鍋だけあってメのスープにフランスパンにチーズを乗せて浸したのもめっちゃ美味かった。

食事会の後に、「朝風呂から夜寝る前にお風呂入って寝よう」パジャマと、「飲み過ぎないように」とワインをプレゼントしてもらった。しばし孫と遊ばせてもらい、楽しいひと時を過ごさせてもらった。これが一番の誕生日プレゼントだ。